

会 議 録

会 議 の 名 称	平成27年度第2回弘前城跡本丸石垣発掘調査委員会
開 催 年 月 日	平成28年 3月15日 (火)
開 始 ・ 終 了 時 刻	14時00分 から 16時00分まで
開 催 場 所	弘前市緑の相談所集会室
議 長 等 の 氏 名	関根達人 (弘前大学人文学部教授)
出 席 者	金森安孝、上條信彦、柴正敏、福井敏隆
欠 席 者	なし
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	(弘前市都市環境部公園緑地課) 公園緑地課長兼弘前城整備活用推進室長・古川勝、同課長補佐・小嶋修造、弘前城整備活用推進室兼スマートシティ推進室総括主幹・神雅昭、弘前城整備活用推進室総括主査・鶴巻秀樹、同室主査・横山幸男、同室主査・笹森康司、同室主事・今野沙貴子 (記録) (弘前市教育委員会文化財課) 文化財課長・三上敏彦、同課長補佐・工藤雅人、同課文化財保護係長・小石川透、同課埋蔵文化財係長・岩井浩介、同係主事・工藤麻衣
会 議 の 議 題	①平成27年度弘前城跡本丸石垣発掘調査の成果について ②平成28年度弘前城跡本丸石垣発掘調査の計画について
会 議 結 果	① 平成27年度弘前城跡本丸石垣発掘調査の成果について ・石垣については、これまでに確認した盛土名称等を整理し、分類による構造の違いを把握しておくこと。また、石垣の石積みに見られる積み手の境界を再検討すること。 ・近代の石垣修理と、それより新しいとされる井戸枠下の掘り込みが、それぞれ近代のいつ頃の所産なのかを明らかにすること。 ・蛇口につながると見られる排水遺構 (石組部分) が、部分的にでも近世の状態を保っているのであれば、石垣積み直しの際に遺構復元をする必要がある。 ② 平成28年度弘前城跡本丸石垣発掘調査の計画について ・平成28年度は、天守台付近の187㎡と平成27年度調査区北端付近の133㎡、合計320㎡の発掘調査を実施する。
会 議 資 料 の 名 称	① 平成27年度弘前城本丸石垣発掘調査成果要旨 ② 平成28年度弘前城本丸石垣修理事業に係る本丸平場発掘調査要項

会議内容

(発言者、
発言内容、
審議経過、
結論等)

① 平成27年度弘前城跡本丸石垣発掘調査の成果について
(事務局)

- ・A12グリッド北端～B13グリッド南端(天守台から北に60m付近)において、近代の石垣修理に伴う盛土の境界を確認した。
- ・A・B1～12グリッド北端までを「石垣A」、A・B12グリッド北端～16グリッドまでを「石垣B」として分類した。現段階では、前者を近代の石垣、後者を元禄の石垣と考えている。
- ・「石垣A」に伴う盛土は、黄褐色粘質土と黒褐色土が交互に重なり合うような堆積状況を見せる上、各層が内濠側に流れ込むように厚く堆積する。また、「石垣A」は径20cm程度の円礫を主体とする幅100cm弱の裏込をもつ。
- ・「石垣B」は、「盛土②古」に伴う石垣である。「盛土②古」には版築状の痕跡が見られ、出土遺物は現段階で17世紀後半までの時期に収まっている。築石の背後に角礫(割石)を、その更に背面に径10～20cm程度の円礫を詰めた幅130cmほどの裏込をもつ。
- ・A12グリッド北端～B13グリッド南端の北側に堆積する「盛土②古」は、A・B13・14グリッドにおいて井戸枠下の遺構に大きく掘り込まれる。「盛土②古」が再び面的な堆積を見せるのは、A・B14グリッド北端以北である。
- ・井戸枠下の掘り込みには複数の時期があり、最古のものが最も大きく、径9mほどである。
- ・A・B12グリッドとB13グリッドに、蛇口につながると思われる排水遺構を確認した。この遺構は、南北方向にのびる部分が粘土で、東西方向にのびる部分が石組で構築される。井戸枠下掘り込みの最古の平面形よりも新しく、遺構内堆積土に近代以降の遺物も含まれる。
- ・B7～11グリッドにおいて、慶長の盛土と想定している「盛土③」とその下の「黒色土」を切土してつくった平坦面を検出した。一方で、B9・10グリッド北西隅では、舌状・階段状に「盛土③」が切り残されている。これらは、近代の石垣修理における作業場であると考えられる。

(委員会)

- ・蛇口につながると思われる石組が、部分的にでも近世の状態を保っているならば、石垣積み直しの際に遺構復元をすることになる。復元に必要な記録を残しておくこと。

	<ul style="list-style-type: none"> ・近代に積み直された石垣より、井戸枠下の掘り込みの方が新しいとのことだが、それぞれの遺構が近代のいつ頃の所産であるのか知りたい。出土遺物で、把握できないか。 ・石積み観察における積み手の境界を再検討すること。発掘調査で、近代の石垣修理範囲が想定より広がったことが判明したのだから、石積みの方にもそれに伴う積み手の違いが現れているはず。 ・石垣背面の盛土の分類・整理は、グリッドごとに行えばよい。また、盛土名称を再度整理すること。 ・裏込については、全グリッドにおいて真上からの写真撮影をしておくこと。 ・今回石垣の分類を行っているが、今後は各石垣の構造の違いを把握する必要がある。 <p>② 平成28年度弘前城跡本丸石垣発掘調査の計画について (事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度は、天守台付近の187㎡と平成27年度調査区北端付近の133㎡の発掘調査を行う。後者においては、慶長の石垣の背面構造も確認する。 <p>(委員会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天守台の調査に当たっては、明らかなクラックや石垣の変形状態を記録に残すこと。 ・慶長の石垣の背面調査は、近世盛土の検出面を確認する程度の掘削でよい。 ・近年、豪雪地帯においては、春先に発生する大量の雪融け水が石垣の孕みの原因になっていると指摘されている。背面盛土を掘削された状態の石垣は、通常より雪融け水の影響を受けやすくなっているため、調査終了後の養生を徹底すること。
<p>その他必要事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の公開、非公開…公開 ・傍聴者数…5名（東奥日報・読売新聞・NHK）